

浜松市総合計画 基本構想

浜松市未来ビジョン

(案)

都市の将来像 1

市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』

浜松の理想の姿・1 ダースの未来 3

- 01 つくる【創る】 …[浜松の産業]
「見たこともない」感動をつくる。
- 02 たかめる【高める】 …[浜松の農林水産業]
自然の恵み×浜松スパイス＝付加価値∞。
- 03 いかす【活かす】 …[浜松のエネルギー]
日当たり良好、未来に無駄なし。
- 04 めぐらす【巡らす】 …[浜松の環境]
エコ (ecological) = エコ (economical)。
- 05 つなぐ【繋ぐ】 …[浜松の多様性]
「都会」と「田舎」両方あって丁度良い。
- 06 みとめあう【認め合う】 …[浜松の多文化共生]
似ていない。だから、うまく行く。
- 07 ささえあう【支え合う】 …[浜松の安全・安心]
安心で選ばれる。安全だから選ばれる。
- 08 はぐくむ【育む】 …[浜松の子育て・教育]
子どもは将来を担う地域の宝。みんなで愛情を注ぐ。
- 09 みのる【実る】 …[浜松の生き方]
若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。
- 10 はたらく【働く】 …[浜松の働き方]
「やってみたい」を自由にチャレンジ。
- 11 かえる【変える】 …[浜松の住まい方]
都市だって、スリムになりたい。
- 12 むすぶ【結ぶ】 …[浜松の情報社会]
もはや遠距離は、二人の妨げではない。

市民協働で築く

『未来へかがやく創造都市・浜松』

未来の浜松をつくるのは、私たち市民です。

私たちは、2045年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を「都市の将来像」に掲げます。

私たちは、世界に誇る技術と文化を有する都市・浜松を受け継ぎました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない浜松が、ものづくりのまちとして自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行できたのは、先人の高い創造性とたゆみない努力、物事に果敢に挑戦する精神の所産です。

私たちは、浜松の発展と先人の英知を次代につなぐ責任を負っています。長期的な展望に立って、課題を認識した上で、希望に満ちた未来を創造します。

以下に、30年後（1世代先）の理想の姿を示し、「浜松市未来ビジョン」とします。

———浜松はクリエイティブシティ【創造都市】———

浜松はクリエイティブシティ（創造都市）です。地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質を高めています。

産業面においては、先人たちの‘やらまいか精神’が受け継がれ、新しいものを創り、新しいことに挑戦しています。多種多様なベンチャー企業が次々と生まれ、イノベーションの連鎖が生まれています。自営業などのスモールビジネスも好調で、建築や商工業デザインのクリエイターが活発に行動しています。

玄関口となる‘まちなか’では、洗練された文化が感じられ、多くの人々に心地よさを提供しています。オープンコンサートのメロディが響き渡り、駅前広場などの公共空間では、レベルの高い絵画・オブジェなどを見て楽しむことができます。音楽を中心に、創造性豊かな人財の育成に力を入れており、**子どもの頃から主体的に芸術に触れること**によって浜松から巣立った音楽家・文化人が世界を舞台に活躍しています。アクトシティで開かれる格調高いコンサートは、**私たちに感動を与え**、中山間地域の歴史的価値の高い伝統芸能を、**市民が楽しんで**います。広大な市域の文化が**相互につながり**、浜松の文化を脈々と引き継いでいます。また、歴史ある音楽イベント、**浜松ピアノコンクール**などを通じて**音楽の都・浜松が全世界に認められています**。

物心両面で暮らしの豊かさが高まる中、多くの外国人が幸せに暮らしています。日本人市民と外国人市民がお互いの文化や習慣の違いを認め合い、共に生きるまちづくりを進め

ています。多文化共生のモデル都市として信頼を勝ち取り、情報や資金が世界中から集まるため、浜松から新しい価値が生まれています。さらに、高度な教育を受けた子どもたちは、世界を舞台に活躍しており、クリエイティブシティの国際色を高める重要な存在になっています。

———みんな、浜松を良くする貴重な人財【市民協働】———

市民協働の人財は、国籍を問わず老若男女のすべての市民です。日々の生活を送る上で、お互いに支え合って安全と安心を確保しています。また、企業は、地域社会における責任を理解し、奉仕活動に努め、NPO 法人をはじめとした市民活動団体も、寄附金等により経済的に自立して活動しています。こうした多様な市民協働の担い手は、お互いに顔を合わせ、時には活発な意見交換を行い、時には笑い合いながら信頼関係を強めています。

浜松まつりや地域の祭り・伝統芸能は、歴史ある大切な文化として次世代に引き継がれています。年齢や職業、国籍が異なる人同士が仲間になり、地域コミュニティの活動を通して、地域の活性化に尽力しています。また、長年地域で生きてきた先輩から多くの知恵を授かりながら、浜松をより良くしています。

生活基盤については、公共インフラが最適化され、居住エリアも集約化が徐々に進んでいるため、将来への負担も抑えています。市民は、ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、日々の暮らしを楽しんでいます。

こうしたまちづくりは、移動や消費にかかる地球環境への負荷も軽減しています。人が生きるために必要な水や自然環境について、将来にわたって守り続けることの大切さを子どもたちから理解しています。大自然からの豊かな恵みを循環させるため、森林や河川、海、湖沼を守る取り組みも、市民協働で行われています。

———新しさを生む伝統を未来へ【ひとづくり】———

浜松の人財は無尽蔵です。これは、子どもたちに対して、家庭・学校・地域において、いっぱい愛情を注ぎ、豊かな心と社会における規範意識を育てているからです。礼儀を重んじ、自ら人間力を高めた人財が、浜松を支えています。

また、先人たちの技が伝承されています。多様な業種が活発化する中、ものづくり産業の伝統の技が活かされ、特色ある技能を持つ人財が、付加価値や生産性の高い産業を成長させています。こうした成長産業への人財や資金の集中とともに、若い世代に加えて、女性や高齢の世代の雇用を大幅に拡大させたことによって、地域経済は順調に推移しています。

浜松には、都市部から中山間地域まで、全国に類を見ない多様性があります。こうした多様性を活かして、‘ひと’を育て、‘モノ’をつくり、ニーズに応じたサービス（‘こと’）で消費活動を活発化させています。‘ひと’‘モノ’‘こと’を循環させるサイクルによって、新しい価値を生み出す伝統が将来に引き継がれています。

以下に、浜松の理想の姿「1 ダースの未来」を定めました。私たち浜松市民は、希望に満ちた未来に向けて挑戦します。

———未来の理想の姿 01 [浜松の産業]———

つくる【創る】

「見たこともない」感動をつくる。

———新しい‘モノ’や‘こと’を次々と生み出している———

浜松は、常に発展し続ける都市。新しい価値を次々と生み出しています。機能からデザイン、サービスに至るまで「見たこともない」と驚かせる‘モノ’、また、「これが欲しかった」と思わせる‘こと’があります。しかも、産業技術や市民生活の一部にさえも、人を惹きつける魅力が備わっています。

ものづくりの分野では、「オンリーワン技術」と呼ばれる企業の技が、脈々と受け継がれながら、常に革新され、新たな産業の糧となっています。浜松の高い技術力で不可能を可能にし、さらに**浜松発のイノベーションが世界に広がり、世界経済を支えています。**

アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれる。新産業を創出する連鎖の仕組みが根付き、いつしか、浜松で認められることが、世界で認められる近道となっています。このため、世界からたくさんの起業家、技術者が集まり、チャレンジ精神をオール浜松で後押ししています。

———市民も来訪者も浜松のリピーター———

世界からの来訪者が多い浜松には、ビジネスチャンスが生まれて**います。**とりわけ、浜松産の農林水産物は、安全とおいしさで勝負しています。ここでしか手に入らない厳選品を取りそろえた店舗が軒を連ね、中には、**腕の立つ料理人も多く店を構え、世界の食通が一度は訪れたい店としてあげる飲食店が食立ち並びます。**浜松産を食べたいと、訪れる人の思いを形にすることで、満足度が高まり、再び家族や友人を連れて浜松を訪れています。一方、市民もリピーターです。店舗同士も競い合い、時には協力して、あたたかいおもてなしで来店客を満足させています。

———他にはない‘ウリ’で交流人口を拡大している———

大自然の恵みを活かした田舎の生活が気軽に体験できるエリアでは、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林の枝払いなどをはじめとした体験型の観光が人気です。観光業の資本が入ることにより、首都圏などからの観光客も格段に増え、顔の見えるあたたかい結びつきが居心地の良さにつながり、体験者には、「**もうひとつのじいじ、ばあばんち**」として親しまれています。多くのリピーターを生み、中には移住してくる人も見られます。

このほか、音楽をはじめとした文化、**浜名湖などのマリンスポーツ、**市内の各地で行われる伝統行事、外国人市民が営む店舗などがウリとなって、多くの市民も休暇を市内で楽しみ、市外からの交流人口も年々拡大しています。

浜松では、特産品、歴史・文化、風土を世界に発信する工夫がなされています。

たかめる【高める】

自然の恵み×浜松スパイス＝付加価値∞。

———×（ものづくり産業）×（ICT）———

浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる肥沃な台地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。また、経営感覚を身につけた従事者が、製造業や観光、医療、福祉などとの連携により、植物工場の設置や新しいサービスへの転換、光技術などの応用を進めています。

農業分野では、大規模農家から小規模農家まで、バランス良く発展しています。効率性を重視した生産工程で安価な外国産品と対等に勝負することもできれば、手間を惜しまず、世界中の高級レストランから注文が入る高品質な農産物を生産することもあります。成功の背景には、まちなかに住まう人でも、サラリーマンであっても、農業を学ぶ環境が整えられたことが挙げられます。これまでの「食べる＝消費する」だけの立場から、多くの市民が「つくる＝生産する」視点を有することに加え、ICT分野の技術士やマーケティングを行うデータサイエンティストなどの専門家が農業に関心を持ち、経営に関わったり、実際に畑を耕したりすることで、健康や福祉などの新しい分野へと結びつけています。

———×（デザイン）×（市民協働）———

林業分野では、植林、伐採の計画的なサイクルのもと、効率よく材木を出荷する体制が整い、「Tenryu-zai」は、世界に通用するブランドとなっています。地元のクリエイターとの結びつきから、デザイン性の高い家具や玩具などに加工され、全国に広く流通する6次産業化も進んでいます。未利用間伐材もバイオマスの定着により、燃料として余すところなく利用されており、環境保全を兼ねながら、収益をあげるサイクルは、全国のモデルとなっています。また、浜松の多くの公共建築物は「Tenryu-zai」でつくられています。

子どもの頃から森林へ足を運ぶことによって、人々が山林を身近に感じ、「命の源である水。水の源である山。」としての価値に多くの人気が気づきました。この結果、人々の生活を守る林業を誇りある職業と感じる人が増え、中山間地域に移住する人も増加しています。

———×（ブランド）×（循環）———

水産業分野においても、ウナギやノコギリガザミなどの特色ある水産物を安価なコストと安全な品質で養殖する方法が定着しています。天然モノは高級料亭から注文が殺到し、養殖モノも家庭の食卓にも上がり、浜松ブランドとして全国で食されています。こうして、乱獲による水産資源の減少も解消され、次世代に豊富な水産資源が継承されています。漁法については、新たな技術革新が生まれ、あわせて、船具や漁具を製造する技術が向上して、水産業が発展しています。

農業を楽しみ、採れたての産品を家庭の食卓の材料としたり、隣近所にお裾分けしたりする小さなサイクル。世界を相手取り、おいしさと安全で大規模にビジネスを展開する大きなサイクル。浜松にはどちらもあります。

いかす【活かす】

日当たり良好、未来に無駄なし。

———自然の恵みを大いに活用———

浜松は、地の利を最大限に活用した「再生可能エネルギー」の普及に取り組んでいます。

日照時間は全国トップクラス。ほとんどの個人住宅や集合住宅には、太陽光をエネルギーに変える屋根や壁面が備わっています。また、高气密・高断熱化など住宅性能も向上し、省エネルギーに配慮されたエコ住宅が一般的です。さらに、ものづくり産業の技術力によって、研究開発が継続的に行われ、太陽光発電のエネルギー効率は大幅に向上しています。

遠州のからっ風も活用しています。かつては体感温度を下げる悩ましい季節風でしたが、今では、風力発電設備から届く電気を通して、快適な空間を提供してくれます。

新エネルギーの開発は、浜松の地域経済に好影響を与えています。中山間地域の林業に活気を取り戻したバイオマス発電に加え、生ごみを利用するバイオガス発電も稼働しています。これにより、市内で発生する生ごみを、ほぼ 100%発電に消費しています。

こうした取り組みを推進することで、再生可能エネルギーによる市民 1 人当たりの発電量は、日本一になっています。

———エネルギーの自給自足———

必要なエネルギーは自分で生成する。エネルギーの自給自足が基本です。こうした市民意識の高まりにより、個人宅だけでなく、民間企業や地域コミュニティにおいてもエネルギーを生成しています。また、余剰エネルギーは電力会社へ売電することで、無駄なく効率的に使用しています。さらに、光・熱・水・風・バイオマスなどは、明るさを引き出す照明や機械を動かす動力などとしても直接利用されています。

———省エネルギーも進めて、必要な分だけ効率良く利用———

1 人当たりのエネルギー使用量は 30 年前と比較すると減少しています。それは、エネルギーに対する高度な教育が推進されるとともに、エネルギーを生成する技術だけではなく、省エネに対する技術も向上したからです。

浜松の多種多様な「再生可能エネルギー」が安定供給されることにより、災害に強い都市となっています。市民は、使用を抑えながら、必要な分だけ、効率良く利用しています。

めぐらす【巡らす】

エコ (ecological) = エコ (economical)。

———温室効果ガス排出取引で収益———

山、海、川、湖といった豊かな自然環境に恵まれた都市。その豊かさは、多種多様な生物を育んできました。これは浜松の貴重な財産であり、“浜松らしさ”です。また、身近な自然を大切にする意識も高まり、きれいな水と空気の中で生活できるよう市民一人ひとりが心がけています。とりわけ、佐鳴湖はじめ身近な水辺では水質が格段に向上し、夏場には、子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

環境教育も進み、すべての市民が、「環境にやさしいことはおサイフにもやさしい」ことを知っています。自然環境を守ることは意識するものではなく、人が生きるため絶対的に必要なことと理解し、日々の生活の中で、自然環境と共存する方法を模索し続けています。また、クリーンエネルギーが普及する中で、CO₂ 排出量が最小限に抑えられています。このため、温室効果ガスの国内排出量取引で、浜松が収益を得ています。

———「水>油」大切な水は市民の誇り———

年間降水量が全国的に見ても多いため、水資源は豊富。市域の約 70%が山林で、きれいで豊富な水を産み出す条件がそろっています。ただし、水は無尽蔵ではありません。山を守ることが水を守ることであり、人間も守られています。市民は、水の源である山や川を大切にし、水が無駄に浪費せず、汚れた水は適切に処理しています。適切な管理によって、豪雨などによる災害も少なくなりました。下水道の処理施設もコンパクト化され、浄化された水の再利用も行われています。戦略物資と言われる石油の代替はありますが、水の代わりはありません。「水>油」。水は市民の誇りです。

———1人当たりのごみ排出量は減少———

ごみに関しては、3R（リサイクル・リユース・リデュース）の取り組みが定着していて、1人当たりのごみ排出量は年々減少しています。また、高度な技術力を活かして、電子機器から再利用できるレアメタルの回収も先進的に取り組まれています。このため、ごみ処理施設は徐々に廃止され、施設はコンパクト化されています。

これまで、化石燃料や鉱物など資源の枯渇が課題とされてきましたが、私たちの世代はそれを使い切っていません。技術革新と市民協働で、環境に配慮した取り組みを向上させたからです。

つなぐ【繋ぐ】

「都会」と「田舎」。両方あって丁度良い。

———「まちなか」は、創造都市・浜松の顔———

「まちなか」は、創造都市・浜松を代表する「顔」として栄えています。アクトシティ浜松周辺の歩道や壁面には、音響やビジュアルアートのデザインがあり、創造性豊かな文化を感じることができます。また、国際的な文化・スポーツのイベントが盛んに開催され、海外からも多くの人を訪れます。

まちなかの店舗も賑わっています。店舗同士が連携、また、差別化することで、歩いてショッピングを楽しむエリアとして確立しており、「華やかさ」や「ワクワク感」を得ることができます。また、居住空間としても洗練されていて、多くの市民が移り住み、買い物など日々の生活は歩いて済ませています。

さらに、公共、商業施設などの都市機能が更に集積し、店舗2階などの空きスペースは、ベンチャー企業の仕事場やアーティスト・デザイナーのアトリエとしても活用されています。文化、商業、居住、業務、歴史などが備わった「まちなか」は、多くの人で賑わいを見せています。

———ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」———

一方で、自然豊かな「中山間地域」は、命の源である水を生み出す、欠かすことのできない地域であり、その価値が見直されています。若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどりや田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。まちなかにおいても、イベントとして披露される回数も多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

昔ながらの田舎の人付き合いが根付いた「中山間地域」では、田舎暮らしを選択した若者や高齢の世代が流入し、新しい雇用も生まれています。「都会」と「田舎」が両方あって、緊密に結ばれている浜松。大都市圏からのアクセスも良く「ほどよい田舎」として、幅広い年代が暮らしやすい生活スポットとなっています。

みとめあう【認め合う】

似ていない。だから、うまく行く。

———多文化共生が国際的な人財の育成———

浜松は、早くから外国人が多く居住する「外国人集住先進都市」であり、市民は海外の文化と共生する術が身についています。このため、世界各国の人財も安心して生活することができ、浜松で活躍しています。浜松で育つ子どもたちは小中学校の教育だけでなく、高校、大学とレベルの高い教育を受け、自らの希望に向かって、得意とする分野で成功を遂げています。

小中学校では、外国人の子どもに対しても、多言語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、母国語の言語支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。外国人の子どもたちは、日に日に文化や習慣の違いを理解し、日本人の子どもたちと一緒に学んで遊んでいます。一方、外国人のクラスメイトと共に成長した日本人の子どもたちは、外国人との付き合いや海外での生活を障壁に感じることはないため、全世界で活躍しており、浜松からインターナショナルな人財が輩出しています。こうした浜松出身者の活躍は、海外の都市から評価され、我が国のイメージ向上にも貢献しています。

———国境を感じさせない都市———

地域コミュニティの場では、日本人市民と外国人市民が一緒になって、地域のお祭りや清掃ボランティアなどの自治会活動に参加しています。また、海外の文化を取り入れた新しいイベントなどが生まれています。お互いの文化を教え合う教室なども共同運営されることにより、相互の習慣の違いを受け入れる優しさや、外国人市民が日本の決まりを尊重する考え方が定着し、言語などの違いに起因するトラブルはありません。

また、ブラジル総領事館をはじめ、ビザの発行の相談ができる窓口など、様々な国籍に対応したサポートが充実しており、多くの外国人市民が、浜松での住みやすさを実感しています。浜松は、国境を感じさせない都市として、新たな浜松文化をつくり上げています。

ささえあう【支え合う】

安心で選ばれる。安全だから選ばれる。

———充実した医療体制と予防教育———

浜松が選ばれる理由は、安心できる生活です。

とりわけ、浜松の医療体制は、我が国の見本です。受け入れ患者の症状によって、救急医療の役割を分担しているほか、診療所で初期診療を行い、専門的な検査・手術や入院を要するものは総合病院で対応するなど、病院同士の連携が進んでいます。相互連携による質の高い医療の提供は、不測の事態であっても安心感があります。

また、病気にかからないための予防の重要性を認識しています。子どもの頃から学校給食や栄養指導でバランスのとれた食事が徹底され、大人になってからも、生活習慣病予防対策など健康であり続ける意識が浸透しています。

———地域の支え合いで絶えない笑顔———

デイサービスなどの福祉施設では、65歳以上の市民がボランティアとして元気に活躍し、利用者の話し相手や清掃活動をサポートしています。介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流によって、いつも笑顔が絶えません。在宅での介護や生活支援を必要とする人には、地域の資源が大いに活用されています。行政やボランティアなどの支援体制によって、本人は住みなれた場所で安心して暮らし続けることができ、介護する家族に対しても、生活の質を向上させています。

———防災と防犯、地域の支え合い———

地域社会での支え合いは、防災や防犯にも活かされています。例えば、コンビニエンスストアなどの店舗が、防災・防犯の相談所となっており、だれもが気軽に利用することができます。これらの店舗をコミュニティの核として活用しながら、学校や診療所、薬局、企業などと連携し、安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

防災や防犯に関する教育は、子どものころから、家庭・学校・地域コミュニティにおいて行われています。また、防災訓練には、多くの住民が参加し、レベルの高い模擬訓練を実施しています。遠州灘海岸には防潮堤ができましたが、すべての市民が「自分の身は自分で守る」とした意識を有しており、大規模災害に対する心構えができています。また、市民の安全と安心を守ってきた防潮堤は、いつの日か「千年堤」と呼ばれるようになるとともに、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民に愛されています。

安全と安心を感じる中で、笑顔が生まれている。その理由は、地域における支え合いなのです。

はぐくむ【育む】

子どもは将来を担う地域の宝。

みんなで愛情を注ぐ。

———子育ての楽しみを地域でシェア———

浜松では、男女の違いなく、子育ての楽しみをシェアしています。

子育てに関する悩みがあっても、隣に住むおじいちゃんや裏のおばあちゃんに気軽に相談でき、子育てのノウハウを持つボランティアもサポートしてくれます。子育てに関する知識が世代間で伝承され、一人で悩み、抱え込むようなことはありません。また、地域主体の育児サークルが活発に活動しているほか、地元のお祭りやスポーツ、昔ながらの遊びを通して、地域ごとに特色のある子育て方法も生まれています。

———地域社会が出生率は上向き———

勤め先では、育児休暇の取得に抵抗がありません。男女の区別なく長期休暇を取得でき、就業復帰時も支援が充実しており、社会が子育てを重視した働き方を推進しています。

浜松の子どもは、みんなで育てる。子どもは将来を担う地域の宝といった意識が一人ひとりに浸透し、保護者や地域が一体となって愛情を注いでいます。このため、子どもたちは、「自分は大切な存在である」と感じ、人間力や社会性など、社会に出る上での必要なスキルを身につけています。

不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています。これは、地域のみんなで子どもたちに愛情を注ぎ、子育て世代を見守っているからです。

———世界に誇る浜松育ち———

学校では、すべての子どもたちが笑顔で平等に学ぶことができます。子ども同士もお互いの特徴を認め合って、楽しく学校生活を送っています。また、一人ひとりの個性に合わせて学びを選択することもできます。理数や語学、芸術、スポーツなどの素質を早くから見つけ、子どもたちの才能を伸ばす教育も盛んに行われています。さらに、学力向上だけでなく、生きる力をはぐくむことに力を入れています。コミュニケーション能力や表現力などの人間力の向上が図られ、自立した人間形成に役立っています。

家庭、地域、企業、学校が連携して一人ひとりの子どもに関わり、地域社会の一員としてはぐくまれています。浜松の子どもたちは、自分のため、地域のため、国のため、そして世界のため、「世界に誇る浜松育ち」として個性を伸ばしています。

子どもが増えた気がします。これは、地域みんなで子どもたちに愛情を注ぎ、子育て世代を見守ってきたからです。

みのもる【実る】

若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。

——60歳を過ぎるとカッコよくて美しい——

市民の5人に2人が65歳以上。とはいえ、もはや「高齢者」とは呼ばれていません。もともと長かった浜松の健康寿命は、生活習慣病の予防や医療の発達により更に向上し、65歳以上の市民が活躍できる時間は20年以上もあります。定年制度を撤廃する企業も増え、働き続けながら、経済的に自立しています。その中で、若い世代に学術や技術、社会で生きる術を伝承し、将来を後世に託しています。まちなかに低所得者向けの住宅が用意される一方で、住まいを自然豊かな中山間地域に移し、晴耕雨読の毎日を楽しむ人もいて、住みたいところで暮らし、健康で自分らしく生きる「カッコいい老い方」が一般的です。

人口の約4割を占めますから、世の中の中心的存在になっています。買い物や観光旅行など、消費を活発化させる重要な対象であり、企業においても、高齢の世代をターゲットとした商品開発に余念がありません。

——いつまでも自分らしい生活を——

地域では、予防に重点を置いた生活指導を充実させています。たとえ病気になったとしても、地域社会に見守られている安心感があり、自らの症状を受け入れ、望みを持ちながら生活の質を高める努力をしています。また、食材の調達・食事の用意を自立して行うことができる福祉技術や、歩行や普段の行動を補助するロボットスーツも市販されており、自分らしい生活を送ることができます。こうした技術は、世界中で好評を博し、海外に輸出されています。

ユニバーサルデザインへの理解も増してきました。建物や生活用品だけではなく、当たり前前に支え合うことができる「心のユニバーサルデザイン」が浸透しています。また、生活支援などのサービスの情報をワンストップで提供するコーディネート機関も地域にあります。

地域で暮らすすべての老若男女が、お互いの立場を理解し、助け合いながら暮らしています。

——長寿を喜べる世の中へ——

また、一人暮らし世帯の数は、上昇傾向にあります。家族と近居したり、知り合いと同居したりする人が増えています。地域社会との関わりを持ちながら生活しているため、大規模な災害が起こったとしても、孤立してしまうようなことはありません。

いくつになっても、ボランティアなどの社会貢献をはじめ、スポーツや絵画、資格の取得などに挑戦し、適度な緊張感を持って輝き続けています。だれもが好きなことに夢中です。人生の達人は、企業にも地域にも必要とされています。

はたらく【働く】

「やってみたい」を自由にチャレンジ。

———働くことにチャレンジ———

働きたい人が自由にチャレンジして、いつでも働くことができる。それは、国籍、性別、年齢、障害の有無などには関係なく、すべての人が対象です。

働くことによって、ほとんどの人が生活の糧を得ていますが、たとえ無償の仕事であったとしても、生きている実感を味わい、社会の中で自分の居場所を見つけることができた人も少なくありません。また、会社勤めが主流ではなくなり、自らの目標を実現するため、新たに起業する人も増えています。

———働くことをサポート———

一方で、企業においては、労働者の生活環境やライフスタイルに合わせて、仕事量の増減を自由に行うことができます。転職についても、積極的にチャレンジできる環境が整備されていて、自分のやりたい仕事を選択することができます。また、求職の際は、身近なところに就業のためのコンシェルジュ的な役割を果たす人がおり、暮らしに合わせた満足度の高い仕事を供給できるように配慮されています。さらに、そこでは、就業のコーディネートだけでなく、様々な事情を抱え働きたくても働けない人のサポートも行っています。

———働きやすい環境を整備———

人口減少、少子高齢化による労働力不足の懸念は、高齢の世代、子育てママの掘り起こしや、障がいのある人、外国人の雇用拡大によって、解消されています。職場環境は大きく変わり、定年の廃止や延長、外国人や障がいのある人の雇用を積極的に行っています。また、**保育施設の充実などにより、子育て世代が働くことを社会で支えています。企業では、育児休暇制度を充実させており、休暇後の職場復帰も積極的に推進しているため、子育てのために仕事を辞める方はいません。短時間労働や在宅勤務が可能となり、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ、子育てや介護、趣味、地域貢献、ボランティア活動などに精を出す人が増えています。また、NPO 法人などの非営利組織も活性化し、魅力ある就労先の1つとなっています。**

浜松の産業は、企業のイノベーションや ICT の目覚ましい進化により、付加価値の高い製品やサービスを市場に提供しています。このため、一人当たりの生産性は向上し、労働人口の減少を補っています。

かえる【変える】

ま ち 都市だって、スリムになりたい。

———浜松の快適な住まい方———

浜松では、土地や家屋が一生の財産であるとした考え方が見直されています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます。かつての空き家が大いに活用され、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した住宅として、リフォームされています。また、子どもの独立を機に戸建て住宅を売りに出し、コンパクトサイズのマンションへ転居する世帯も増えています。一方で、子育て世代が、売りに出された戸建て住宅に移り住むといったサイクルが形成されています。これにより、同一世代が一定の地域に集まることが少なくなり、地域において世代を越えた交流が進んでいます。

———居住地域が集約———

拡大していた居住地は地域の拠点に集約傾向にあり、人口密度の高い地域は一層高まり、居住地域と農業や工業を営む生産する地域とのメリハリが明確についています。これにより、土地や家屋の流動化が進み、空き家や空き地は減少し、住宅団地などの一団の開発はほとんどありません。一方、生産する地域では農業の大規模化や企業誘致が進むなど、生産性が高まっています。

———エコな乗り方・エコな乗り物———

移動手段は、地域や企業などが所有する乗り物をシェアし、乗り合いながら利用しているため、渋滞は緩和されています。個人で自家用車を持ち、運転を楽しむ方もいますが、安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんどです。市街地における日常の移動手段は、徒歩を中心としています。エコな一人乗りの乗り物もあります。道路は、歩道と車道が明確に区分され、交通事故は減少しています。歩くところにできたオープンスペースは、コミュニケーションの場となっています。また、居住地の集約化によって、不要となった道路は、廃道され、他の用途に活用されています。

———同じ建物で公共サービスと民間サービスを提供———

公共施設についても考え方が見直されました。点在していた公共施設の機能を1つの建物に集約したり、図書館だった施設に民間事業者が運営する映画館やカフェを併設したり、機能の合理化がなされています。また、美術館が、休日には結婚式場、夜にはディナー会場になるなど、様々な用途として柔軟に活用されています。運営母体には、民間事業者やNPO法人などが新たに参入しており、使い勝手の良い施設として、質の高いサービスを提供しています。

むすぶ【結ぶ】

もはや遠距離は、二人の妨げではない。

———働き方に ICT———

ICTの向上は目覚しく、私たちの生活の細部に浸透しています。インターネット端末は、使いやすい機能性を備え、より身近なものとなり、だれもが賢く利用しています。

働き方が大きく変わりました。Web会議などが主流になっており、仕事のために移動することは、月に数回程度。それ以外は、ほとんど自宅に対応しています。また、商店や小さな工場などは、インターネットを利用して世界を相手にビジネスを広げています。こうした生活は場所を選ばないことから、中山間地域の空き家をリノベーションしてオフィス兼住宅とするなど、自分の居場所を選択できるようになっています。勤務時間の概念がなくなり、自分の時間を活用できています。

———学び方に ICT———

児童・生徒は、それぞれインターネット端末を所有しています。授業の様子をインターネット端末で復習することができるため、病気で休んだ場合には大変便利で、学習が遅れることはありません。また、緊急連絡の受信や位置情報の配信にも利用され、防犯対策も万全です。

ICTの普及とともに、情報倫理の浸透とセキュリティの強化が進んでいます。学校をはじめ、社会においても、情報を正しく評価・識別するメディアリテラシーを教えています。また、溢れる情報を必要な時に正しく使うため、メディアに依存しすぎないアウトメディアに対する考え方も身につけるよう指導しています。

———公共インフラに ICT———

浜松の抱える膨大なインフラの維持に関しては、センサーにより遠隔管理する技術をいち早く取り入れているほか、市役所における手続きも電子化が進み、庁舎まで出向かなくてもインターネットでほとんど対応できます。また、電子カルテによるデータ管理や、遠隔診療など、医療にもICTが取り入れられ、利便性が向上しています。

———観光客に ICT———

観光面においては、交流人口を拡大させるため、豊かな自然や貴重な文化資源などの浜松の魅力を世界に発信しています。また、市域全体に公衆無線LANが整備され、通信が無料でインターネット端末を快適に使うことができ、市民も利用しています。さらに、テーマに応じた観光情報を配信するアプリは無数に普及しており、海外の観光客にも分かりやすく案内しています。

世代を通じて多くの市民が情報技術を賢く活用し、生活の豊かさにつなげています。



浜松市

浜松市未来ビジョン

発行：浜松市

編集：浜松市企画調整部企画課